

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

④3

旅は新しい出会いをもたらし、事象の捉えかたを教えてくれます。十六年前初めて住田町を訪れたとき、固有の地域資源に着目し、確かな地域振興策を展開している町づくりの姿を目にすることができました。

たことは、成長を続けるスギにこの地域のたゆまぬ営為が注ぎ込まれているということでした。

今回の旅は時間に余裕があったことや自分自身が広報づくりを通して「地域」を見てきたことで、以前に伺った折に気づかなかったこと、見えなかったことが感じられたのです。

新たな発見もありました。気仙川に架かる木造の一本橋、住田町下有住の松日橋(まつびし)です。この橋は国道側の中山集落とその対岸の松日集落を結び、集落間の往来や水田への見回りなど農作業にも利用されています。

農産物では「集約と複合」を基本とする住田型農業、林業面では、木材の生産、流通、加工、これに住宅生産、販売の一連の過程をシステム化した住田型林業です。

二〇〇九年二月二十八日、再び住田町を塙町の仲間たち六人とともに訪れました。私は最初に訪問した折に見た、見事なまでに植え込まれたスギ林に驚かされました。再びその場所に立つて感じ

たことは、成長を続けるスギにこの地域のたゆまぬ営為が注ぎ込まれているということでした。

今回の旅は時間に余裕があったことや自分自身が広報づくりを通して「地域」を見てきたことで、以前に伺った折に気づかなかったこと、見えなかったことが感じられたのです。

にしたほどの厚さです。立派な大きな板が四枚渡してあり、水面からちょうど背丈くらいの高さにあって、歩いてみると板特有のしなりをもった揺れ具合が心地いいのです。

真下には小さな石の一つ一つを見ることができ

区に歴史、文化遺産として残していきたい」と地域の方々は言います。

私は今回の住田町訪問でこの地域に生き、暮らす人々の思いにも触れることができました。五葉山に愛着を持つ多くの方々が書かれた「五葉山の魅力」リレーエッセイ

「スギ林」「一本橋」「五葉山のリレーエッセイ」に共通することは、地域の人々の営為が個別具体的に体现されていることです。

リレーエッセイ

いま守りたいもの

福島県塙町 天沼恵子

まず。腰より少し高い位置にスギ丸太の手すりが付けれ、安全にも配慮されていました。

この橋が最初に架けられたのは、江戸は元禄時代であるといえます。もう三百年も前のことになりました。台風や大水で年に何回も流されながらも、そのたびに地域の人は川に入り、橋架け作業をしてきました。手間はかかる橋に違いありませんが、「下有住地

生死の縁に立ちながら、付けれ、安全にも配慮されていました。

この橋が最初に架けられたのは、江戸は元禄時代であるといえます。もう三百年も前のことになりました。

いま私は改めて思うのです。風土の持つ力、目に見えない地域の力、そしてそこに住む一人ひとりの存在を承認し、認めあうことの大切についてです。



木造の一本橋「松日橋」。台風や大水で流されるたびに橋かけ作業をするのに

れる地域。どんなにグローバル化が進行し、効率化が進んでも地域が地域であり得るのは「守りたいもの」が厳然として存在するからです。

地域が地域であり続けることの意味を問い、投げかけ、多くの示唆を与えてくれた住田への旅は続いています。

【執筆者プロフィール】一九五八年生まれ。福島県塙町在住。塙町役場勤務、平成元年から広

報担当。「町おこしは広報から」と改革に全力を傾注。福島県広報コンクールで八年連続「特選」、全国広報コンで三年連続入賞、全国広報コン「特選・自治大臣賞」など。